

で掲載

(2回目)

されました。

流行作家が尽力

相模国磯部村(相模

原市南区磯部)に住ん

た草双紙の戯作者、仙

客亭柏琳(本名・荒井

金次郎)が無名の農民

ながら「花のお江戸」

で作家デビューできた

のは、柏琳が自ら流行

作家の柳亭種彦に原稿

を送り、作品を評価し

た種彦が発刊に尽力し

ていたためだったこと

が分かった。柏琳から

5代目に当たる相模原

市南区麻溝台、日相印

刷会長、荒井徹さんが、

柏琳の初作「花吹雪

縁柵」を翻刻する中

で、出版のいきさつを

書いた種彦の巻頭文を

見つけた。

「星下梅花咲」「紫

房紋の文箱」を含めて

世に出た柏琳著の草双

紙3作は、いずれも種

彦が監修。表紙と挿絵

を浮世絵師の葛飾北斎

や歌川国芳、歌川貞秀

が担当したのも、種彦

の強い力添えがあった

からとみられている。

1833年に初めて

刊行された「花吹雪縁

柵」は、作者名が「相

州磯部作」と記されて

いる。種彦は巻頭で「磯

部村何某の作にござり

まする。先年、種本を

私方に送られました。

手紙には農業が忙し

く、老いたる親がいる

から、お江戸に出て近

5代目・荒井さんが巻頭文を発見



づきにもならぬ、こ

と劣作を認め、村名を

た「仙客亭柏琳 翻刻

「花吹雪縁柵」を「相州磯部」作とした種彦の説明の書かれた巻頭文

問い合わせは日相印
刷(042-74806
020)。「高橋和夫」